

令和7年度 第1回 長崎市DX推進委員会

日時 令和7年7月23日(水) 15:00～16:30

場所 市役所15階 中会議室

結果

議題1 委員長・副委員長の互選

- 委員長に小林信博委員、副委員長に神山剛委員が選出された。

議題2 長崎市DX推進計画の取組みについて

- 事務局から、DX推進計画及びDXパッケージ2025について説明した。

議題3 年間スケジュールについて

- 事務局より、委員会の開催を今年度3回行う予定であること、第2回は各委員からのご意見等を共有していただくこと、第3回では令和8年度に行う取組みについて報告する旨を説明した。
- 委員より、大学にて検討しているデータサイエンスについての社会人向けリスクリソングプログラム、及びデータ利活用についての紹介があった。

主な質疑等

議題1 委員長・副委員長の互選

特になし。

議題2 長崎市DX推進計画の取組みについて

委員：DX推進計画を改定する際に行ったアンケートについて、通信機器を使用していないとの回答が1%あるが、実際と乖離しているのではないか。また、どのようにアンケートを実施したのか。

事務局：アンケートは紙と電子を併用して、3,000人を対象に行った。年齢や地域を網羅する形で、ランダムに抽出した。

委員：D X推進計画内のアンケート結果には年代や性別などの属性が記されていないが、そのようなデータはあるのか。また、約 2,000 人が回答していないが、アンケートに偏りがあるのではないか。

事務局：アンケートはコンサルの事業者と相談して作成しており、母数全体を網羅するため一部重みづけをしている。アンケート詳細については令和 6 年度第 2 回の DX 推進委員会資料に調査結果報告があるため、改めて共有する。

委員：デジタル化が進展することによって、人間性の喪失、思考停止が生じるのではないか。また、それによって不公平な社会が形成されるのではないかと懸念している。公正な社会を築くために、利便性とリスクを整理する必要がある。

事務局：現在、社会ではデジタルを安全に活用していくためのルールを形成している。初めにデジタルを有効活用できる分野に普及させ、その他の分野にも浸透させ社会全体が恩恵を受けられるよう進めていく。デジタル化のメリットを最大限生かせるよう、メリハリをつけて活用していく。

委員長：デジタル化の進展によって、市民の不利益が増大するようなことはあってはならない。その点について、D X推進計画のコンセプトである「人が主役のまちづくり」に表れている。各委員のみなさまには改善点等について、今後も忌憚なき意見をいただきたい。

委員：メタバースによる登校支援が現在どのような状況になっているか確認したい。

事務局：メタバースを活用した登校支援は昨年試験運用し、効果が確認できたことから本年度より登校できない児童生徒向けの「ひかり」教室に導入している。

委員：メタバースによる登校支援は自宅から出られず、「ひかり」教室に通えない児童生徒が対象となっている。実際の参加者数は現在どのような状況であるか。

事務局：教育研究所に確認をとり、事業の概要についても共有する。

委員：マイナンバーの普及率を教えてほしい。また、マイナンバーを所有していない層がどのようなものか教えてほしい。

事務局：約 80 パーセントである。所有していない層としては、高齢者が多い。

委員：人口減少下において、デジタル関連予算が増額しているのはなぜか。

事務局：税や福祉のシステムを全国で統一する事業である標準化に対応するため、増加している。

委員：外国人向け観光アプリを市で導入しているか。導入しているのであれば、データを収集し、活用することができるのではないか。

事務局：長崎市では導入していない。フリーWi-Fiのデータを活用している他都市の事例があるため、長崎市でも検討する必要があると考えている。

委員：D X推進計画内「暮らしとデジタル」、「行政とデジタル」の領域において、市民がアプリなどのデジタルの取組みを知るきっかけはどのようなものか。

事務局：子育てアプリの例だと、届け出のため来庁した際にご案内している。その他総括的なものについては公式 LINE や広報誌などを様々な方法で周知している。

議題3 年間スケジュールについて

委員：委員の皆様方に対する生成 AI の勉強会の開催について提案したい。

事務局：第2回委員会内にて開催できるよう調整していく。